

## 第10回 邑の映画会

～～～ みんなで 祝おう ～～～

「邑の映画会」が今年で第十回を迎える。すばらしい。小学生だった子どもたちは高校生、大学生、社会人にもなっているわけだから、子どもたちが入れ替わっても、この映画会を続けていこうという気持ち、子どもたちにも学校にも地域にも失われずに続いてきたということだから、すごい。

十年前と比べて、子どもたちの周辺には、より一層、無意味で騒がしい映像が洪水の如く溢れかえっている。フランスのド・ゴール政権下で「映画教育」と言うものがスタートした時、時の文化相、アンドレ・マルローは「子供たちを商業主義から守るため」とその目的をたった一言で語った。

映画館のない邑楽町だからこそ、出来ることがある。十周年にふさわしい、優れた映画が集まった。ビクトル・エリセ監督の「ミツバチのささやき」は必見です。「邑の映画会」が、どんな映画文化を共有しようとしているのか、とてもいいお手本かと思います。

邑の映画会顧問 映画監督 小栗康平

\*\*\*\* 無いはず素晴らしい \*\*\*\*

邑の映画会は、世界の優れた作品を上映し、10年を迎えました。邑楽町が群馬県の映像教育の指定校になった翌年から、嘗てあった邑の映画館を、邑の子ども大人町民で立ち上げたのです。

「無い」ということは、素晴らしい。映画館も無い、ホールも無い、こんな映画会やったことも無い、そんな町に立ち上がった手作りの映画会。試行錯誤の連続でした。でも、「信念は曲げない」これでいい。

どうぞ、祝い！第10回邑の映画会に、お越しく下さい。お待ち申し上げます。

邑の映画会実行委員会 アーティスト・ディレクター 加藤一枝